

ぱれっと

8
2024 August
vol.288

第24回通常総代会 令和5年度事業報告／要約版

農を担う
ニンニク栽培農家 片山 達也 さん
玉野地区……………10ページ

今月の折り込み 令和6年度一般果樹苗木注文申込書
2024年8月号カタログショッピングチラシ ほか



各議案を審議する総代

第24回通常総代会 全議案を可決承認

当組合は6月25日、ホテルグランヴィア岡山で第24回通常総代会を開催しました。総代数483人のうち433人(本人出席1人、33人、代理人出席1人、書面出席299人)の出席がありました。総代会では「令和5年度事業報告及び剰余金処分案の承認について」「令和6年度事業計画の設定について」「定款、定款附属書総代選挙規程の一部変更について」「経営管理委員、理事、監事の報酬の決定について」「退任役員に対する退職慰労金の支給について」の全5議案が審議され、全て原案通り承認されました。次ページからは令和5年度事業報告の要約、主な事業の活動内容と取組結果についてご報告します。



あいさつをする宮武博経営管理委員会会長



議長の祇園美直総代(邑久)(左)と日名文吾総代(加茂川)(右)

【令和5年度事業報告／要約版】 主な事業の活動内容と取組結果についてご報告させていただきます。

令和5年度は、「不断の自己改革」の基本目標である「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の実現に向け、令和4年度に策定した「営農振興計画」と「地域くらし活性化計画」を中心とする「中期計画」の実践2年目として、事業方針に沿った活動に取り組みました。

各事業の取組成果は、コロナ禍後において経済社会活動の正常化が進む一方で、依然として日銀のマイナス金利政策の長期化や不安定な国際情勢によるエネルギー価格の高止まりなどの影響により、厳しい経営環境ではありましたが、組合員・利用者皆さまの事業活動に対するご理解・ご協力と経費見直しに継続して取り組んだ結果、収支面では事業利益、経常利益ともに計画に対して上回る結果となりました。

損益計算書 令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

単位:千円

科目	金額	科目	金額
事業総利益	7,641,895	事業外収益	1,011,219
信用事業総利益	3,873,478	事業外費用	129,968
共済事業総利益	1,987,341	経常利益	1,114,090
購買事業総利益	543,231	特別利益	224,498
販売事業総利益	483,418	特別損失※	1,408,724
保管事業総利益	84,018	税引前当期損失	70,136
利用事業総利益	581,432	法人税等合計	5,664
宅地等供給事業総利益	84,421	当期損失金	75,800
旅行事業総利益	4,712	当期首繰越剰余金	445,161
福祉事業総損失	327	リスク管理対応積立金目的取崩額	627,069
農用地利用調整事業総利益	2,167	営農振興対策積立金目的取崩額	11,688
指導事業収支差額	△1,996	土地再評価差額金取崩額	548,356
事業管理費	7,409,056	当期末処分剰余金	1,556,474
人件費	4,911,165	※令和5年度は、特別損失に区分している減損損失として、将来キャッシュフローの見積方法の変更等により、14億660万8千円を計上しておりますが、あらかじめ、これらの会計処理において発生するリスク等に備えるため、リスク管理対応積立金を積み立てており、この積立金の目的取崩しにより、当期末処分剰余金へは影響させておりません。	
業務費	915,175		
諸税負担金	277,801		
施設費	1,231,649		
その他事業管理費	73,266		
事業利益	232,840		

剰余金処分

単位:千円

科目	金額
1.当期末処分剰余金	1,556,474
2.剰余金処分額	1,069,449
(1)利益準備金	100,000
(2)任意積立金	757,448
(うちリスク管理対応積立金)	685,086
(うち施設整備強化積立金)	30,000
(うち指導事業強化積立金)	10,000
(うち営農振興対策積立金)	11,688
(うち電算情報システム開発積立金)	10,000
(うち宅地等供給事業積立金)	10,673
(3)出資配当金	212,002
3.次期繰越剰余金	487,025

(注)

- 出資配当は年2.0%の割合です。ただし、出資配当の対象は当組合定款第76条第4項の規定によります。
- 次期繰越剰余金には、営農指導、生活・文化改善事業の費用(いわゆる教育情報繰越金)に充てるための繰越額26,000千円が含まれています。
- 損益計算書および剰余金処分の記載金額は、千円未満を四捨五入して表示しています。そのため、内訳金額を合計した金額が合計欄記載の金額と一致しない場合があります。

指導事業

【営農活動】

「営農振興計画」に基づき、農畜産物の生産振興ならびに営農指導機能の強化・充実に努めるとともに、「営農振興支援事業」を活用し、担い手経営体の育成・支援による産地の維持・発展に取り組ましました。

① 営農指導

本所・営農センター間の営農活動にかかる情報共有と連携を図るとともに、「担い手農家」等への訪問活動の強化に努めました。

② 農畜産物の生産振興

スマート農業の確立に向けてドローンによる水稲の葉色診断や麦の適正な土づくり指導を実施し、高品質・安定生産に向けた生産振興に取り組むとともに、園芸作物では、「営農振興支援事業」の活用による振興品目の作付推進と、新改植を含めた面積拡大を図りました。

③ 担い手の育成・支援および産地の活性化

「就農促進トータルサポート事業」等への取り組み、もも農業塾、ぶどう農業塾をはじめとする各種栽培講習会による農業生産基盤の底辺拡大、1日農業バイトアプリを活用し、大型農家等の労働力確保による農作業支援に取り組ましました。

【生活活動】

「豊かで暮らしやすい地域社会の実現」を目指して、女性部との連携により各種生活文化活動や食農教育に取り組ましました。

【相談活動】

税理士による税務相談会や所得税および消費税の確定申告支援を実施するなど、JA岡山青色申告会を基軸とした税務相談活動に取り組ましました。

【広報活動】

広報誌「ぱれっと」、「笑味ちゃん天気予報」、ホームページ等への情報掲載などを通じて、JA事業や農業・生活文化活動への取

り組みについて情報発信を行いました。

信用事業

多様化する農業・くらし・地域の各領域において、JAの特色を活かした金融仲介機能の発揮に取り組みとともに、組合員・利用者の皆さまから信頼される金融機関として、持続可能な収益性・将来にわたる健全性の確保に努めました。

【金融仲介機能の発揮】

農業・地域に根差した金融機関として、様々な農業資金や生活資金ニーズへの対応・強化に取り組むとともに、資産の有効活用および継承支援にかかる資金需要等への相談対応など金融仲介機能の発揮に努めました。

【組合員・利用者満足度向上の実践】

組合員・利用者の皆さまのライフプランに寄り添い、一人ひとりの資産状況・ニーズに応じた提案活動や金融商品の充実に努めるとともに、ローン・年金等各種相談

会を開催しました。

【収益性・健全性の確保】

貸出取引等について厳正な資産の自己査定を実施し、財務の健全性と安定収益の確保に努めました。また、各種研修会・巡回指導の実施を通じて、不祥事・事務ミス等の未然防止など事務堅確性向上に取り組ましました。

共済事業

組合員・利用者の皆さまへ、安心と満足をお届けし続けるために、持続可能な経営基盤の確立・強化を図りました。

【相談・普及活動】

3Q訪問・3Qコール活動を実践し、組合員・全契約者の皆さまに寄り添ったフォロー活動に取り組ましました。また、SDGsへの取り組みとして、地域貢献活動を通じ、組合員・地域住民の皆さまが豊かで安心して暮らすことのできる地域社会づくりの実践に取り組ましました。

管理監査

内部統制の確立と不祥事未然防止への取り組み、役職員のコンプライアンス意識の徹底を図るとともに、内部監査を実施し、事務処理の適正化に取り組みしました。また、施設整備計画に基づき、支所等の改修工事等、組合所有施設の整備を行いました。

利用事業

【大型共同乾燥調製施設】

効率的な運営と良質な製品を仕上げるために稼働施設の点検整備を行いました。また、施設の効率的な運営を目指し、生糞移送等による完全サテライト化を継続して取り組みました。

【共同利用施設】

集出荷場および選果場施設等の効率的な利用に努めるとともに、育苗施設の有効活用として、水稻苗・野菜苗の生産供給を行いました。

【農産物加工施設】

大豆テンペ・味噌・米粉パン・惣菜等、地元の農産物を生かした加工品を製造する場として、女性部と効率的な運営を行うとともに、品質向上や衛生管理等の研修会を開催しました。

宅地等供給事業

農地等売買の仲介や組合員の資産活用として賃貸住宅・店舗

購買事業

【審査・査定・保全業務】

新契約の引受、共済金の支払処理の迅速化・適正化に努めました。

販売事業

生産から販売までをキーワードに多様化する実需者ニーズへの対応と重点取引先等との連携強化を図り、農畜産物の安定供給体制と有利販売に努め、農家所得の向上に取り組ましました。

保管事業

準低温・低温倉庫に集約保管を行い、倉庫の効率的な運用と適正な保管管理に努めました。

旅行事業

建設等の幹旋に取り組ましました。

仲間づくりを目的とした親睦旅行や岡山発着の国内旅行など、組合員・利用者の皆さまに喜んでいただける旅行商品の提供を行いました。

高齢者福祉事業

助け合いの会「かがやき」協力会員によるミニデイサービス・サロン・地域の茶の間「みんなの家」を開催し、生きがいと交流の場の提供に取り組ましました。

農用地利用調整事業

耕作放棄地の発生防止ならびに担い手への農地集積促進のため、「農作業受委託事業」による農作業支援に取り組むとともに、「農業支援に取組むとともに」、「農地利用集積円滑化事業」では、岡山県農地中間管理機構との連携を図りながら農地の流動化に取り組ましました。



本記事では概略をご報告させていただきました。詳細については、各支所・営農センターへ備え置いております【通常総代会資料】および【ディスクロージャー誌】または、JA岡山ホームページにて公開しております【ディスクロージャー資料】をご確認ください。

若い人に農業の魅力を伝え、 ニンニクの産地化を目指す。

片山 達也さん 玉野地区：ニンニク栽培農家

「かたやま たつや」
昭和49年生まれ。みらいファーム代表。ニンニク（上海早生）を栽培する兼業農家。
趣味は、農機具のカタログを見ること。座右の銘は「気合と根性」。



6月21日、玉野地区の片山達也さんにお話を伺いました。

独立志向が高く、 自分で何かしたかった

―就農したきっかけは

船のエンジン部品を造る会社で機械のオペレーターをしていました。元々、独立志向が高く40歳の頃、このまま会社に勤務して定年になり、それからまた何か仕事をすることを考えると、同じところで働くより何か自分でやってみたいと考えていました。

今の技術を生かして、電気工事



乾燥具合を確認する片山さん

の仕事とか考えていましたが、長く働けて地元で根付いたことがしたくて、友人の誘いもあり農業を始めてみました。

―農業を始めてから

今まで農業の経験はなく、家庭菜園レベルの趣味で、2㍓の農地を借りて野菜の栽培を始めました。

最初からニンニクを作ろうと決めていたわけではなく、レタスや白菜、夏野菜、タマネギを栽培して、仕事と兼業できたのがニンニクでした。

4年前に子どもが就職したのできつかけに、ニンニク栽培を本業にしようという計画をたて、毎年農地を広げ、昨年は40㍓を作付けしました。

―苦労すること

1番の苦労は、雑草との闘いです。なるべく草を生やさないように心掛けていますが、面積が広く除草作業に苦労します。

また、近年気温の高い傾向が続いていて、定植時期を間違えると成長に影響が出るので、毎年、気温

や定植時期のデータを取って研究しています。

―楽しいこと

農作業をしているときは「無」になれます（笑）。トラクターに乗っている時、皮をむいて根を切っている時間、何もかも忘れて集中しています。気づいたら1日が終わっている様な、兼業農家だからこそかもしれないですね。

働いたことが結果に出て、日々改善を繰り返す終わりが無いのが楽しいです。

後に続く人材を育てたい

―今後の抱負は

作付け2㍓を目標に頑張ります。「兼業農家でもここまでできる」という見本になって、若い人に農業の魅力を伝え、後に続く人を育てたい。

仲間を増やし、この地区をニンニク産地にして、ブランド化を図り、生産量100㍓を目指して頑張ります。

聞き手：JA岡山広報担当



丁寧に仕上げ作業をする



ホイル焼きがおすすめです

野菜(シュンギク)

シュンギクは食物繊維が豊富です



営農部指導課 祇園 将人

菜園作業も非常に暑い季節になりました。夏野菜も収穫最盛期を迎えていると思います。暑い時期の収穫は早朝に行いましょう。早朝に行うことで果実温度が低い状態で収穫できるので、収穫後の野菜の日持ちがよくなります。

●シュンギクについて

地中海沿岸が原産地で、冷涼な気候を好み、生育適温は15〜20℃ですが、暑さにも強い野菜です。春播き、秋播き栽培が可能です。高温・長日で抽苔(トウ立ち)するので夏場の栽培は避けましょう。秋播きでは8月下旬〜11月上旬が播種時期になりますが、露地では霜が降りると痛むので遅播き栽培ではハウスかトンネルでの保温が必要です(資料1)。

花き(切り花)

日保ちのよい切り花で人気を確保



営農部指導課 中川 雄一

暖かい時期は花の種類が豊富
そして、日保ちが課題

2019年の6月号でさまざまな水あげの方法をご紹介しました。種類によって水があがりにくいものや、注意が必要なものがありますので、参考にしてみてくださいと思います。今回は、直売所などにできるだけ日保ちする切り花を出荷するための注意点などをまとめてみます。

●切り花するときの注意点

●切り花はいつ? 朝が最適です。特に気温が高い時期は、植物の温度が低いこともその後の鮮度維持に重要です。植物は日中太陽を浴びて養分を作り、夜の間に根や茎頂部に転流させます。反対に、夏の日中は強光、高温に耐えて消費しています。特に夏の切り花は早朝に行いましょう。そして切ったらすぐに日陰にして速やかに調整へと進めます。

●道具の注意 切り花には剪定ばさみ、切り花用のカマなどを使いますが、いずれも切れ味がよいことが欠かせません。よく切れなくなってきた道具やクラフト用のはさみなどで切り口周辺を傷め、腐りやすくなります。

また、清潔であることも大切です。使用後は毎回きれいに洗い、できれば農具用の消毒剤や熱湯などで頻りに消毒

・病害虫 シュンギクは病害虫の発生が比較的に少ない野菜です。しかし秋の長雨でべと病や炭そ病が発生することがあります。対策として早めに間引いて株と株の間隔を十分にとり風通しをよくすることも病害虫の発生を防ぐ耕種的防除になるので手遅れにならないよう注意しましょう。

・畑の準備 播種の10日前までに10平方メートルあたり堆肥約20kg、石灰約1.5kg、JA岡山専用有機肥料等を約800g施用し、深く耕し、畝幅約1mの2条播きの畝を作りま(資料2)。

・播種 朝夕の涼しい時間帯に行います。植え溝に種子を播き、その上に薄く覆土をします。シュンギクは発芽に光を必要とするので覆土が分厚くならないように注意します。その後発芽まで乾燥しないよう注意します。

・間引き・追肥 発芽後、混んでいる所を間引きます。本葉2枚の間引きのころに1回目、本葉5〜6枚の間引きのころに2回目の追肥を行います。1回につき10平方メートルあたりJA岡山専用有機肥料等を約400g行います。また、5〜6枚のころ間引いたシュンギクは収穫して食べることもできます。

毒するのがおすすです。水あげ用の桶も清潔にしておかないとバクテリアが繁殖した水になり、その後の日保ちを悪くします。●作業する場所の環境 切り花の調整作業や保管する場所を清潔にすることもポイントです。植物残渣や廃棄物には分解するカビなどが発生し、気づかないうちに花弁などに付く可能性もあります。花束を入れるフラワーキャップなども清潔な環境で保管しましょう。

●水にも注意 夏は涼しい部屋で水あげするのが理想ですが、水も溜めたまま温まったものではないけません。反対に冷蔵庫などで冷えすぎても上がりにくいので、水道水をそのまま使うのが衛生面、温度ともに安全です。●大切な切り前 切り前とは、どのくらいの咲き加減で切るかのタイミングのこと、種類によっても注意が必要です。将来もともと日本人の好みとしては、将来

資料3 よいタイミングで切り花しましょう



トサカケイトウ:左は未熟、右が切り前



クリスマスローズ:咲き進んだ花(左)と開花したばかりの花(右) 右は、これもよく咲かせて切り花したいアゲラタム

資料4 始めは難しいブレウラムの切り前



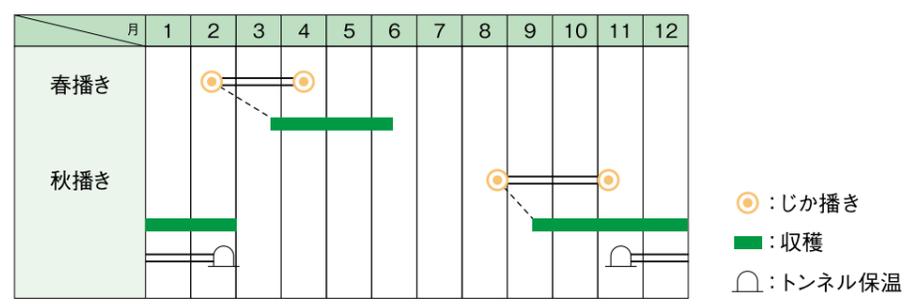
ブレウラム:枝が柔らかくまだ充分咲いていない株(左)と、全体が黄色く発色した開花株(右)

資料5 水あげ技術の開発でグンと日保ちするようになった花の例

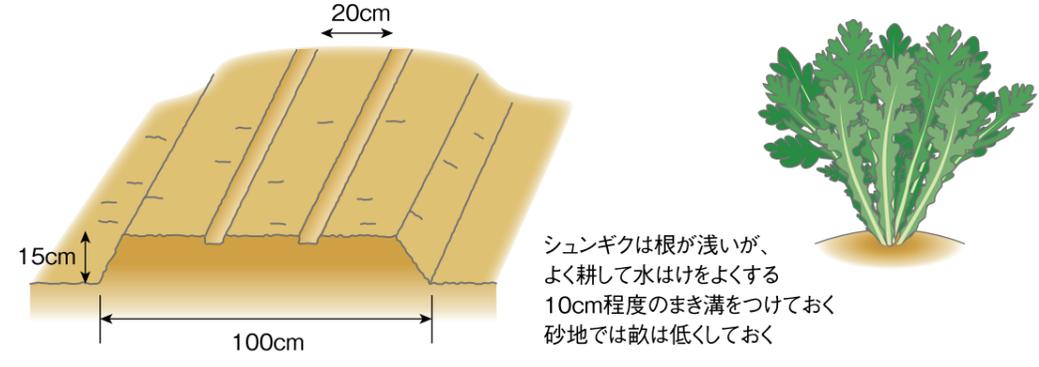


可憐で長保ちスイートピー(左)、ラークスパ(中央、右)やデルフィニュームもきれいに咲きます

資料1 シュンギクの作型



資料2 畑の準備



・収穫 生育中期までは間引き収穫がメインとなりますが、後半は下葉を4〜5枚残して摘み取り収穫を行います。下葉を残すことでわき芽が伸びてまた新しい茎を収穫することができます。

楽しみが多い咲き始め(蕾がたくさんついている)でしたが、最近では飾った時から華やかに見えるものが好まれる傾向に変わってきました。ことに、元々日保ちのよい種類(例えばリンドウ)ならある程度咲いてから切った方が豪華ですし、逆に早く切った場合、後で咲いてくる蕾は色がうす〜いものになります。最適なタイミングは、種類だけでなく気温などの条件にもよります。

●早く切り過ぎるはいけないもの 例えばケイトウ、アゲラタム、クリスマスローズなど、急いで切ると水あげしてもすぐに萎れてしまいます。ケイトウは、品種特性が現れた花型に咲くまで、クリスマスローズは雄しべの葯が落ちるころまで待つと大丈夫です。反対に待ちすぎると老化し、ケイトウでは黒い種が落ち始めますからご注意ください(資料3)。

また、ブレウラムのように次々と若い枝が出る種類は、早切りすると若く細い枝が萎れます(資料4)。

・長持ちさせる水あげ剤 花の傷みが早く、本来は切り花に向きな種類が、「延命剤」と言われる水あげ用の資材が開発されて飛躍的に保ちがよくなり、広く切り花利用されるようになったものがあります。例えば、ラークスパ、デルフィニューム、スイートピーなど、産地では処理し出荷していますので、無処理のその種類の切り花は実用には不向きです。品目ごとの最適な資材を確認して使う必要があります(資料5)。

●栽培管理の影響 収穫前の株がチツソや水分過剰の状態だと切り花の日保ちが悪くなることはよくあります。種類によって肥料や水を好むものもありますが、一般的には、収穫が近づいたら肥効を少し抑え、水も控えるようにして、硬くしまった品質を目指しましょう。病害虫に侵されていないことも大切です。下葉を水に浸けると腐りやすく、あらかじめ取りますが、茎に残る傷が大きくなりやすいので注意しましょう。

果樹（夏果実）

8月は夏果実の収穫時期になります



営農部指導課 武田 祐一

8月はモモやブドウ、ナシ、イチジク、ブルーベリー等の夏果実の収穫時期になります。これまでに愛情を注いで育てた果実がようやく成熟します。一方で、樹が来年にむけて貯蔵養分を蓄積する時期になりますので、収穫後の管理にも力を入れていきましょう。

また、秋果実は最後の追い込み時期なので気を抜かず管理し、収穫期を迎えましょう。

一 ブドウの管理

・**ピオーネの収穫・収穫後の管理**
ピオーネは果粒が軟化期から約40日で収穫適期になります。ブドウの果粒は房先よりも房の方が高糖度が高いので、収穫する前に房先の粒を試食して、糖度、酸抜きの具合や食味を確認しましょう（資料6）。トンネル栽培は、県南部は8月下旬ごろ、9月にかけて収穫されます。

収穫期は鳥による被害を受けやすいので、防鳥ネット等を設置し、被害を未然に防ぎます。

また、収穫後には枝管理を合わせて行いましょう。無摘心の場合、来年度に蓄える養分が無駄に使用されてしまいます。貯蔵養分不足になると翌年の初期生育が悪くなります。元葉の傷みが少ない場合は2週間に一度の間隔で再伸長部の摘心や切除を繰り返して行い、残っている本葉や副梢の葉を維持します。新梢の先端部を1〜2節で切り返し、2番枝の発生部位を切り取っておきます。

収穫後は「ありがと〜」の気持ちをこめて礼肥を与えてやりましょう。使用する肥料は速効性の化成肥料が適しています。病害虫が発生している場合は防除暦を参

考に防除しましょう。

（例）モモ、ブドウなどに礼肥として「ヨロロップ化成S604」などを使用する場合は、1樹あたり1kg程度を施します（資料7）。施用後は土と軽く混ぜ合わせ、灌水を行います。

二 モモの管理

・**モモの収穫後の枝管理**

清水白桃の収穫時期は8月上旬ごろには終了し一段落しますが、モモハモグリガやせん孔細菌病等に侵されると早期落葉し、枝の充実が悪くなります。礼肥を施用して秋根の伸長を促進するとともに収穫後の防除を行います。懐の徒長枝が混みあうようであれば整理し、基部10cm程度を残し、切除します（秋は枝が急激に太るので秋季剪定を9月上旬までに実施します）。

三 ナシの管理

・**病害虫防除**

カキノヘタムシガは、平年であれば6月と8月の年2回発生します。

6月に被害が多発した場合は8月も発生が多くなるので注意が必要です。7月下旬〜8月上旬にかけて防除を徹底しましょう。防除薬剤としては、スミチオン乳剤1,000倍液（収穫30日前まで）又は、オルトラン（IIジェイエース水溶液）水和剤1,500倍液（収穫45日前まで）又は、ダントツ水溶液4,000倍液（収穫7日前まで）にトップジンM水和剤1,500倍液を加用すると、炭そ病・うどんこ病の同時防除をすることが出来ます。

四 ナシの管理

・**灌水**
土壌が乾燥し過ぎると果実肥大が劣り、果肉硬化、煮え果等果肉障害が発生します。梅雨明け後、高温乾燥が7日以上続いたら灌水を始め、7日間隔で十分灌水を行います。8月の灌水が大変重要で、果実肥大や果肉障害に大きく影響する時期ですので注意しましょう。

五 ビワの管理

・**ビワの剪定**

ビワは品種によって樹形が変わってきます。茂木など枝が真上に伸びる品種は、横に伸びる枝を残すよう「変則主幹形」に仕立てます。変則主幹形は、幹を2〜3層の高さで切り落とし、横に広がる枝は3〜4本、左右互い違いになるよう配置します。横に伸びる枝の間隔は、30〜45cm程度空けるとよいでしょう（資料8）。仕立てます。一方、田中など枝が横に広がる品種は「盃状形」に仕立てます。

それぞれの品種に合った樹形が完成したら、混み合った枝を間引いて、木の内側にも日光が当たるようにします。その年に伸びた枝の先端付近に花芽が付くので、剪定時に切り落とさないよう注意しましょう。また、太い枝（500円玉以上の太さ）を剪定した後は切り口が傷みや、そこから病気になることもあります。切り口を保護するために、癒合剤のトップジンMペーストを塗布しましょう。ビワは木の育ち具合で剪定期間が変わります。

（**ビワの果実がまだ未結実な段階**）
未結実の若木の時期は、2月ごろに剪

定を行います。この時期は花が咲いているので、間違っても切らないよう花の近くを避けて剪定します。

（**ビワの果実が成り始めてからの剪定**）
結実し始めた木の剪定は、8月下旬〜9月ごろが最適です。特に蕾が大きくなる前の9月上旬ごろに行うと木への負担が少ないです。着果過多になると栄養が分散して味が悪くなるので、着果量のコントロールが主な目的となります。

3月以降に降った雨、太い枝を切るなどの強剪定は避けましょう。ビワの生長が悪くなり、果実の結実に悪影響を及ぼします。

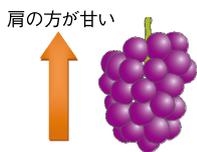
・**ビワは間引き剪定と切り戻し剪定が基本**
間引き剪定とは、（資料9）のように枝を根元の部分から切り落とす手法です。密集し過ぎた枝や病害虫のある枝などの不要部分を切除します。間引き剪定をすると日あたりや風通しが改善され、ビワの生長がよくなります。

切り戻し剪定とは、伸びた枝を途中で切り形を整える方法です。主な目的は樹形や大きさのコントロールです。ビワが大木になり過ぎて隣地にはみ出す場合に切り戻し剪定が有効です。

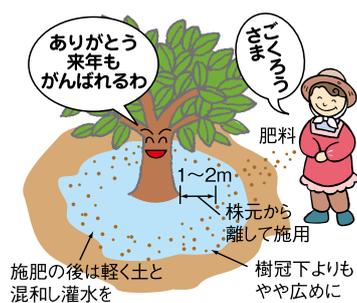
※ビワを縮小したい場合は切り戻し剪定と誘引

大木に育ったビワを小さくしたい場合は、3年かけて剪定しながら誘引（樹勢を落ち着かせ花芽を着生させるため）して樹高を低くしていきます（資料10）。一度にバツサリ太い枝を切ってしまうと、株に大きなストレスがかかり、果実が成らなくなったり枯れてしまう恐れがあります（枝が減った分、果実より枝葉の生長に栄養を使用するため）。

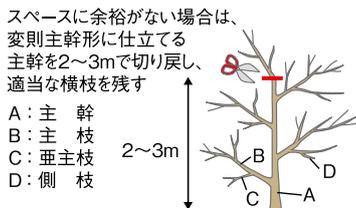
資料6 ブドウの糖度上昇



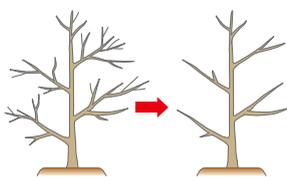
資料7 礼肥の施用方法



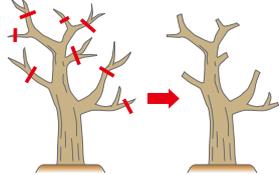
資料8 変則主幹形



資料9 間引き剪定



切り戻し剪定



資料10 誘引





夏野菜の 南蛮漬け

材料 (4人分)

鶏もも肉 (薄切り) …………… 1枚
 カボチャ (1cm幅) …………… 1/4個
 パプリカ赤、黄 (5mm幅) …… 各1/2個
 新タマネギ (薄切り) …………… 1個
 オクラ (下ゆでしたもの) …………… 4個
 輪切りトウガラシ …………… 適宜

●南蛮酢

かつおだし …………… 450ml
 酢 …………… 270ml
 みりん …………… 180ml
 薄口しょうゆ …………… 90ml

揚げ油 …………… 適宜
 薄力粉 …………… 適宜

作り方

- ①ボウルに新タマネギ、赤・黄パプリカ、輪切りトウガラシ、薄力粉をまぶし油で揚げた鶏もも肉とカボチャを入れる。
- ②小鍋に南蛮酢の材料を沸かし、①に熱いまま注ぎ入れ、クッキングシートを落としラップで密封する。
- ③②の粗熱を取ってから冷蔵庫で冷やして器に盛り付け、オクラを飾り出来上がり。

レシピ ●永井智一 茨城県笠間市にある「天晴 (旧キッチン晴人)」オーナーシェフ



広報誌「ぱれっと」は こんな意味で 付けられました!

こんにちは。暑い日が毎日続きますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。さて、先日、お客様より「広報誌をいつも楽しみに読んでいる者ですが、この「ぱれっと」の意味は何ですか?」という、うれしいお電話をいただきました。せっかくなので、この場をお借りして、ぜひご紹介させていただきます。

「ぱれっと」とは、水彩画や油絵を描くときに絵具をまぜあわせて色を作る板のことです。特色ある地域の様々な情報をうまく調和させながら、地域と共に歩むという願いをこめて皆さまにお届けしたいと、当時の広報担当者が名付けました。

「ぱれっと」に込めた思いを引き継いで、これからも皆さまのお役に立てる情報が発信できる広報誌になるよう、担当者一同がんばります!



総務課長 佐藤 美苗

各種媒体で情報発信



オンラインショップ
 はなやか
 花野菜
 オンライン



Instagram



JAOKAYAMA.OFFICIAL



YouTube

